

～3+2年間の集大成 先進的な設計技術者を目指す！！～ 専攻科第一期生 「創造研究」の成果を発表

1月25日(火)に、専攻科初の修了生となる第一期生の創造研究発表会が開催され、第一期生22名(機械系コース15名、電子系コース7名)が最終学年として取り組んだ「創造研究」の成果を発表しました。協力企業(19社 33名)、県教育委員会の方々には、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインシステム(oVice)でご参加いただきました。

第一期生は高校入学時にSPH事業がスタートし、高校3年間と専攻科2年間を通じて「TECH-Aスキル」を学び、深化させてきており、今年度は、専攻科の最終目標である「地方創生を創造する先進的な設計技術者」に向けた仕上げとして、「創造研究」に取り組みました。「創造研究」は、企業と連携した教育(デュアルシステム)により、これまで学んだスキルの総合力を主体的、実践的に学びます。内定企業のサポートを受けながら、学生がテーマを選定し、発見した課題の解決に向けて試行錯誤を繰り返し、先進的デザイン技術者として必要なスキルの深化に取り組んできました。



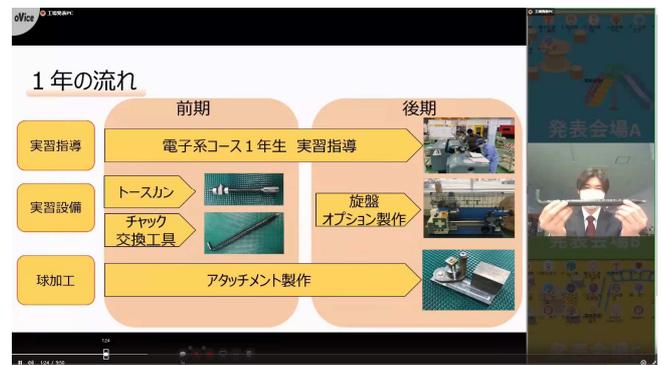
修了前の大事なイベントであり、最初は緊張が高まっていましたが、充実した成果報告が続き、徐々に緊張感の中にも達成感に溢れた雰囲気となってきました。目標が達成できたテーマ、できなかったテーマはありましたが、学生は研究成果と共に、苦労したこと、失敗したこと、対応状況やその過程で何を学んだか等を発表し、研究を通じて大きく成長した姿を披露しました。

企業の方からも、高校3年間と比べてレベルの高い成果を上げ、専攻科における学びが充実していることにお



褒めの言葉をいただき、期待の高さを感じました。参加した第二期生(1年生)からも、先輩の発表に感心した、感動した、見習いたい等の声が聞こえ、来年以降も大きな期待が寄せられると感じました。

今回、初めてオンラインシステムを使用しましたが、発表、質問などをスムーズに行え、参加者からも好評でした。



●参加企業様の感想(抜粋・要約)

- ・本科の課題研究から一歩進んだ研究が出来ていた。
- ・非常に良い発表で、良く指導されていると感じた。
- ・デュアルシステムは学生、企業双方にメリットがある。
- ・研究のスケジュール管理はもっとしっかりした方がよい。

●二期生(1年生)の感想(抜粋)

- ・パワポ、説明も分かり易く、素晴らしいプレゼンだった。
- ・レベルの高い研究ですごいと思う、自分もやってみたい。
- ・電子系なのに機械も扱っていて、素晴らしいと感じた。
- ・企業の質問で自分達への期待を感じることができた。
- ・失敗にも諦めずに試行錯誤する姿に感心した。